

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄							備考	
計画の区分		学部・学科の設置								
フリガナ設置者		ガッコウホウジン ミスバリガクエン 学校法人 ミスバリ学園								
フリガナ大学の名称		ビューティアンドウェルネスセンモンシヨクダイガク ビューティ&ウェルネス専門職大学								
大学本部の位置		神奈川県横浜市都筑区牛久保3丁目9番3号								
大学の目的		ビューティ&ウェルネス専門職大学は、教育基本法及び学校教育法並びに学校法人ミスバリ学園の教育理念（美しく聡明で品格あるプロフェッショナルの育成）に基づき、質の高い教養教育と実践的な職業教育を施すとともに、心身の美と健康に関する理論と技術を教授研究し、質の高い、幸せで輝く人生を導くことができる専門職人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的		ビューティサイエンス学科では、高度な専門知識、洗練された技術、そしてホスピタリティ能力を併せ持ち、人々が満足して自己実現を達成できる美容サービスを提供できる美容師、実業人を養成する。その過程で、心身の美の追求を通して、人々の心豊かな生活と健康寿命の延伸を具現化するとともに、これらの知識と技術をマネジメントできる力を身につけて、美容業界を牽引する力を養う。さらに、獲得した知力・技術力を基盤として、新しい価値を創造し、イノベーションを生み出すことができる人材を育て、社会に送り出す。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	ビューティ&ウェルネス学部 ビューティサイエンス学科 計	年 4	人 40 40	年次人 — —	人 160 160	ビューティ&ウェルネス学士（専門職）	保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）	年 月 第 年次 令和8年4月 第1年次	神奈川県横浜市都筑区牛久保3丁目9番3号	
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		ビューティ&ウェルネス学部ビューティ&ウェルネス学科〔定員減〕（△40）（令和8年4月）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数						卒業要件単位数		
	ビューティ&ウェルネス学部 ビューティサイエンス学科	講義		演習		実験・実習		計		
		51科目		28科目		27科目		106科目		124単位
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設	ビューティ&ウェルネス学部 ビューティサイエンス学科	5人 (3)	4人 (4)	2人 (2)	1人 (1)	12人 (10)	0人 (0)	54人 (23)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (3)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	10 (9)		大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (1)				
	小計（a～b）	5人 (3)	4人 (4)	2人 (2)	1人 (1)	12人 (10)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	5人 (3)	4人 (4)	2人 (2)	1人 (1)	12人 (10)					
分	計	5人 (3)	4人 (4)	2人 (2)	1人 (1)	12人 (10)	0 (0)	— (—)		

既 設 分	ビューティ&ウェルネス学部 ビューティ&ウェルネス学科		19 (19)	12 (12)	10 (10)	7 (7)	48 (48)	0 (0)	29 (29)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 9人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		15 (16)	8 (8)	10 (10)	7 (7)	40 (41)				
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		4 (3)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (7)				
	小計（a～b）		19 (19)	12 (12)	10 (10)	7 (7)	48 (48)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）		19 (19)	12 (12)	10 (10)	7 (7)	48 (48)				
分	計		19 (19)	12 (12)	10 (10)	7 (7)	48 (48)	0 (0)	— (—)		
合 計			24 (22)	16 (16)	12 (12)	8 (8)	60 (58)	0 (0)	— (—)		
職 種			専 属			その他		計			
事 務 職 員			17 (17) 人			5 (5) 人		22 (22) 人			
技 術 職 員			1 (1)			4 (4)		5 (5)			
図 書 館 職 員			1 (1)			2 (2)		3 (3)			
そ の 他 の 職 員			0 (0)			0 (0)		0 (0)			
指 導 補 助 者			0 (0)			1 (1)		1 (1)			
計			19 (19)			12 (12)		31 (31)			
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		借用面積： 13,676.71㎡ 借用期間： 20年
	校 舎 敷 地		13,676.71㎡		0㎡		0㎡		13,676.71㎡		
	そ の 他		0㎡		0㎡		0㎡		0㎡		
	合 計		13,676.71㎡		0㎡		0㎡		13,676.71㎡		
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
			11,553.17㎡ (11,553.17㎡)		0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		11,553.17㎡ (11,553.17㎡)		
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		34室		教 員 研 究 室		44室		大学全体
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具		標本		大学全体
			冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	点	点			
	ビューティ&ウェルネス学部 ビューティ&ウェルネス学科		11,000 [750] (11,000 [750])	0 [0] (0 [0])	21 [1] (21 [1])	1 [1] (1 [1])	6,487 (6,487)	3 (3)			
	計		11,000 [750] (11,000 [750])	0 [0] (0 [0])	21 [1] (21 [1])	1 [1] (1 [1])	6,487 (6,487)	3 (3)			
スポーツ施設等			スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		529.24㎡		大学全体
			—㎡		—㎡						

経費の見 積り及び 維持方法 の概要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等都 は学科単位での 算出不能なた め、学部全体	
		教員1人当り研究費等			300千円	300千円	300千円	300千円	—	—		
		共同研究費等			3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	—	—		
		図 書 購 入 費	4,045千円	130千円	130千円	130千円	130千円	—	—			
		設 備 購 入 費	16,383千円	0千円	0千円	0千円	0千円	—	—			
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
			1,645千円	1,445千円	1,445千円	1,445千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入・雑収入等									
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 等 の 名 称 ビューティ&ウェルネス専門職大学											※令和8年度より 定員減（△40） （ビューティ& ウェルネス学 科）
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地			
	ビューティ& ウェルネス学部 ビューティ& ウェルネス学科	年	人	年次 人	人		倍		神奈川県横浜市都 区牛久保3-9-3			
		4	194	6	788	ビューティ& ウェルネス学士 （専門職）	0.57	令和5年度				
	大 学 等 の 名 称 ミス・バリ・ビューティ専門学校											
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地			
	トータルビューティ 学科	年	人	年次 人	人		倍		東京都豊島区池袋2-			
	美容学科	2	120	—	240	専門士	0.72	平成22年度	23-3			
	エスティックマス ター学科	2	80	—	160	専門士	0.66	平成22年度				
		1	12	—	12	—	0.25	平成22年度				
	大 学 等 の 名 称 ミス・バリ・ビューティ専門学校 大宮校											
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地			
	トータルビューティ 学科	年	人	年次 人	人		倍		埼玉県さいたま市大			
	美容学科	2	80	—	160	専門士	0.57	平成24年度	宮区高鼻町1-46			
		2	79	—	158	専門士	0.87	平成25年度				
附属施設の概要		該当なし										

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	基 幹 教 員 等 の 配 置 の 数	
基礎 科目	ビューティ&ウェルネス入門	1前	○	1			○				1	1			6	オムニバス
	キャリアデザインⅠ	1前		2			○								1	
	キャリアデザインⅡ	2後		2				○							1	
	コミュニケーション論	1後	○	2			○								1	
	コミュニケーション演習	1後	○	2				○							1	
	英語Ⅰ	1後		2				○				1			2	
	英語Ⅱ	2前		2				○				1			2	
	英語Ⅲ	2後			2			○							1	
	中国語入門	2後			2			○							1	
	心理学	1前	○	2			○								1	
	比較芸術論	1後			2		○								1	選択必修
	身体表現論	1後			2		○								1	選択必修
	伝統文化演習	1後			2			○							4	選択必修、オムニバス
	ジェンダーとダイバーシティ	1後			2		○								1	選択必修
	生命科学	1前	○	2			○				1				1	オムニバス
	化学	1前	○	2			○			1						
	データサイエンス入門	1前		2				○							1	
	経済学	1後		2			○								1	
	国際関係論	2前			2		○								1	選択必修
	法学概論	2前			2		○								1	選択必修
	現代社会論	2前			2		○								1	選択必修
		小計（21科目）	—	—	23	18	0	—			1	2	1	1	0	22
職業 専門 科目	ヘルスプロモーション総論	1前	○	1			○				1				1	
	人体の構造及び機能	1前	○	1			○				1					
	皮膚の構造及び機能	1前	○	1			○								1	
	化粧品学	1後	○	2			○				1					
	生化学	1後			2		○				1					
	栄養学	2前			2		○			1						
	衛生学	2後	○	1			○			1						
	公衆衛生学	2後	○	1			○			1						
	リスク管理、ウェルネス推進のための臨床医学的基礎	3後	○	1			○								1	
	救急法	3後	○	1				○							1	
	病態生理学	3・4後			1		○								1	
	アンチエイジングの科学	3・4後			1		○								1	
	統合医療論	3・4後			2		○								1	
	身体運動学	3前			1		○								1	
	運動生理学	3前			1		○								1	
	運動指導演習	3前			2			○							1	
	フィットネス実習Ⅰ	2前			1				○						1	
	フィットネス実習Ⅱ	2前			1				○						1	
	フィットネス実習Ⅲ	3後			1				○						1	集中
	フィットネス実習Ⅳ	3後			1				○						1	

科目 区分		授業科目の名称	配当 年次	主要 授業 科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	実 験・演 習・実 習・実 習	
職業専門科目	心身の美の 追求	美容技術理論Ⅰ	1前	○	1			○					1				
		美容技術理論Ⅱ	1後	○	1			○					1				
		美容技術の理論と方法	2前	○	1				○				1				
		美容技術応用理論	2後	○	1			○					1				
		美容総合演習Ⅰ	3前	○	2				○				1				
		美容総合演習Ⅱ	3後	○	2				○				1				
		美容総合演習Ⅲ	4前	○	2				○				1				
		美容総合演習Ⅳ	4前	○	2				○				1				
		美容総合演習Ⅴ	4後	○	2				○				1				
		美容総合演習Ⅵ	4後	○	2				○				1				
		ホスピタリティ論	2前	○	1			○								1	
		ホスピタリティ演習	2前	○	1				○							1	
		カウンセリング論	2前	○	1			○								2	オムニバス
		カウンセリング演習	2前	○	1				○							2	オムニバス
		美容実習Ⅰ	1前	○	2					○			1			1	
		美容実習Ⅱ	1後	○	2					○			1			1	
		美容実習Ⅲ	2前	○	2					○			1			1	
		美容実習Ⅳ	2後	○	2					○			1			1	
		美容実習Ⅴ	3前	○	2					○			1			1	
		美容実習Ⅵ	3後	○	2					○			1			1	
		美容実習Ⅶ	4前	○	2					○			1			1	
		美容実習Ⅷ	4後	○	2					○			1			1	
		サロン実習Ⅰ	2後	○	4					臨		1	2				
		サロン実習Ⅱ	3前	○	8					臨		1	2				集中
		サロン実習Ⅲ	4前	○	8					臨		1	2				集中
		メイクアップ実習Ⅰ	1前	○	2					○		1					
		メイクアップ実習Ⅱ	2後	○	2					○		1					
		ネイルデザイン実習Ⅰ	1後	○	2					○	1					1	
		ネイルデザイン実習Ⅱ	2前			2				○	1					1	
		トリートメント基礎理論Ⅰ	1前			2		○								1	
		トリートメント基礎理論Ⅱ	1後			2		○								1	
		トリートメント技術の理論と方法	2前			2			○							1	
		ボディトリートメント実習Ⅰ	1前			2				○						1	
		ボディトリートメント実習Ⅱ	2後			2				○						1	
		フェイシャルトリートメント実習Ⅰ	1後			2				○						1	
		フェイシャルトリートメント実習Ⅱ	2前			2				○						1	
		美容文化論	1後	○	2			○					1				
		美の変遷と展望	2後			2		○								3	オムニバス
		色彩学	2後			2		○								1	
		アロマセラピー演習	3・4後			2			○							1	
		ホリスティックセラピー実習	3・4後			2				○						1	
		ファッションコーディネート実習	3後			1				○			1				
		トータルコーディネート実習	4前			1				○						3	オムニバス
		小計（ 63科目 ）	—	—	73	42	0	—			3	3	2	0	0	26	—
展開科目	経営の基礎	経営学概論	2前		2			○							1		
		ファイナンスの基礎	2前		2			○							1		
		人材育成論	2後		2			○							1		
		経営組織論	3前		2			○							1		
		マーケティング論	3前		2			○		1							
		経営戦略論	3後		2			○							1		
	美容・ウェルネス産業の振興	ヘルスケア産業論	2前		1			○							1		
		サービス科学の基礎	2前		1			○							1		
		美容関係法規	2後		2			○							1		
		商品企画論	3後		2				○		1						
		起業論	3・4前			2		○							1		
		地域産業活性化論	3・4前			2		○							1		
		インバウンド論	3・4前			2		○							1		
		ウェルネスツーリズム論	3・4前			2		○							1		
		消費者心理論	3・4前			2		○							1		
		ウェブメディア演習	3・4前			2			○						1		
		ビジネスプレゼンテーション演習	3・4前			2			○						1		
		サロンマネジメント演習	3・4前			2			○						1		
		商品開発と効果検証	4前			2			○						1		
		海外研修	4前			2				○					1	集中	
		小計（ 20科目 ）	—	—	18	20	0	—			2	0	0	0	0	14	—
総合科目	総合演習Ⅰ	3後	○	2				○		5	4	2	1		3		
	総合演習Ⅱ	4前	○	2				○		5	4	2	1		3		
	小計（ 2科目 ）	—	—	4	0	0	—			5	4	2	1		3	—	
合計（ 106 科目 ）		—	—	118	80	0				5	4	2	1	0	54		
学位又は 称号	ビューティ&ウェルネス学士（専門職）				学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）								
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
【卒業要件】 次により、必修科目118単位、選択科目6単位以上、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：48単位（年間）） 基礎科目は、必修23単位を含め27単位以上 ※選択科目のうち比較芸術論、身体表現論、伝統文化演習、ジェンダーとダイバーシティから2単位、国際関係論、法学概論、現代社会論から2単位を選択必修とする。 職業専門科目は、必修73単位以上 展開科目は、必修18単位を含め20単位以上 総合科目は、4単位 実験・実習科目を42単位以上 臨地実務実習科目を20単位									1学年の学期区分				2期				
									1学期の授業期間				15週				
									1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要			
（ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	キャリア 教育	本授業科目は、本学開学の趣旨と教育研究方針を学び、ビューティ&ウェルネスについて理解を深めるとともに、個々の学生が自らの未来を描くために設置されたものである。新入学生を対象として、学生たちが本学の特色を知り、自らの将来をイメージしながら、在学期間を有効に過ごすための導入的授業科目である。本講義を通して、学生が本学の教育カリキュラムを自律的に選択する目を養い、今後履修する授業で修得する知識と技術を有効に活用し、卒業後、美容産業・ウェルネス産業界でリーダーシップを発揮できる人物へと成長することを目的としている。 （オムニバス方式／全8回） （14 室伏さきみ子／1回） 学長講義として、本学開学の趣旨、ビューティ&ウェルネス分野と保健衛生分野の関係についての講義を行う。 （19 下村朱美／1回） 理事長講義として、ミスパリ学園の教育理念、美容産業・ウェルネス産業の現状についての講義を行う。 （15 藪内佐斗司／1回） 本学の芸術・教養教育分野について説明し、対応する授業科目の解説と美容産業・ウェルネス産業での役割について講義をする。 （37 江渕敦／1回） ウェルネスの定義について説明し、ウェルネス産業の将来性について講義する。 （18 本田善一郎／1回） 医学・自然科学分野について説明し、対応する授業科目の解説とビューティ&ウェルネスにおける役割について講義をする。 （11 九島紀子／1回） 美容サロン施設の経営管理について講義するとともに、対応する授業科目について解説する。 （16 猪崎弥生／1回） ビューティ&ウェルネスを学ぶうえで、身体表現を学修する意義や価値について講義する。 （9 廣石裕／1回） 美容サロンで提供されている美容施術について講義し、対応する授業科目の解説と美容産業で活かせる資格の取得方法について説明する。	主要授業科目 オムニバス方式
	ビューティ&ウェルネス 入門		
	キャリアデザインⅠ	大学で学ぶことの意義、高校までの勉強の仕方と大学での学問の違い、自己投資の意味、職業選択のあり方など、仲間と意見を共有しあうグループワークを通じて、学生自身による「自己肯定感」が実感できるよう授業を展開する。この授業では、仕事のうえで必要とされる基本的な文章の書き方や大学生活に欠かせない基本スキルとして、自ら疑問を抱き考える事の重要さと分からない事をそのままにせず探究心を持って調べていくことなどを身につける場とする。大学での学びが働くようになって必要とされる能力の育成につながっていることを理解し、「頭の体幹」を鍛えるとともに、社会に出るためには何が必要なのか、自分が社会に出て何をしたいかを見据えて、大学生活の過ごし方や目標を明確にしていくことを目指している。	

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
基礎 科目	キャリア 教育	キャリアデザインⅡ	キャリアには、「ライフキャリア」と「ワークキャリア」がある。より実りある人生を送るためには、「ワークキャリア」だけでなく、「ライフキャリア」という視点を持つことが大切である。就職・結婚・出産などのライフイベントで、どのような選択をし、自分の人生を組み立てていくのかを考えることは豊かな人生を送るために必要である。それらを踏まえたうえで、卒業後の就職先になるのである美容・健康・リラクゼーション関連産業での労働について学ぶ。実際に働いている先輩社会人から仕事の実態を聴き、どのような職業観・人生観を持って働いているかを理解する。この授業では、生涯を通して、どのように職業と関わりたいかを整理するとともに、先輩社会人との交流、仲間とのディスカッションの中で「人間力」を高めていくことを目指している。	
	言語と コミュニ ケーション	コミュニケーション論	この授業では、学生生活だけでなく社会人になってからも公私に亘り一生生涯自らを助け輝かせることが出来るよう「なぜコミュニケーションを学ぶのか」という基礎的なことから、大きな視野でコミュニケーションの歴史、役割、スキルを学んでいく。誰にも代わってもらえないデリバリーする情報伝達能力、相手に伝わりやすいシナリオをつくる内容構成力、好印象や信頼感を与えることができるプレゼンス（存在感）を大きな軸とし、話し言葉、絵、写真、文字、映像という各手段を考慮し状況に合わせ情報や意志の交換を高いレベルで図れるように基礎から習得する。「コミュニケーション障害」「言語能力の低下」などと近年言われるが「コミュニケーション力向上」を目指し、多くの学生は努力している。学びが実社会でどのように活かせるのか、練習を各自が言語化しながらリフレクションし、学びを進める。	主要授業科目
		コミュニケーション演習	この授業では、コミュニケーションの基本を把握した上で、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーションについて、身近な体験や企業の事例などを活用しながら、運用能力、表現力を高めていくことを目的としている。相手の身になって考えることが源となっており、ホスピタリティやサービスとの関連性にも着目しながら理解を深める。知識の理解を前提に、それらを活用して行動に起こすことができるよう演習を行う。100人いれば100通りの考え方や感じ方があり、感性を磨いていくことの重要性を学ぶ。サービスを提供する者として、相手に「伝わった」ときの共有感と幸福感は、何にも代えがたい。そのような視点を養い、表現できるようになることを目的としている。	主要授業科目
		英語Ⅰ	英語は、公用語として多くの国が使用する言語である。そのため、他国の人たちとのコミュニケーションを図るためには、重要な言語となる。この授業では、他国の文化や風習などの国際理解し、基礎となる英語能力を身につけることを目的とする。今後、訪日外国人観光客やさらには在日外国人が増え、日本国内でグローバル化がますます進むことが想定される中、英語で自分の意見を伝えることができるコミュニケーションツールとしての語学を身につける。また、英語で記載されている参考文献や最新の情報を理解できるようになる力を身につける。このことで、世界の流行を知り、視野を広げ、英語を活用したコミュニケーションが取れる力を身につけるよう学習を行う。	
		英語Ⅱ	訪日外国人旅行者数は年々増加し、体験型コンテンツの一つとして、我が国の美容技術に対するニーズは高く、それに伴う英語による説明も必要となってきている。この授業では、英会話を通して、海外の方をお迎えする場面、予約（電話、対面）、受付、美容やウェルネスに関するサービス（案内、カウンセリング、理論、実技）、お礼状（メッセージ）の書き方、日本文化の伝え方、各国の風習、伝統文化についてなどを想定した演習を実施する。そして、接客に直接必要となるコミュニケーション能力を身につけ、文化的背景や物事の捉え方、解釈の相違などを含め、異文化を学び、理解し合うことが目標である。	

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	言語と コミュニ ケー ション	英語Ⅲ	この授業では、英語I・IIをさらに進展させた英語の学習を目指す。海外留学のためのTOEFLの問題を活用しながら、将来、海外から来日する人たちに美容技術を教えるため、あるいは海外においてビジネス方法を学ぶために、海外に行く際に役立つヒアリング力やスピーキング力の向上に向けてのレッスンと、海外の人々とメールのやり取りをする際に必要なライティング能力、そしてエッセイを読むことを通してリーディング能力を高める授業を行う。つまり、バランスの取れた実用英語のための4技能（ヒアリング能力、スピーキング能力、ライティング能力、リーディング能力）の上達を目指す授業を試みる。また、より一層英語に関心や興味が湧くように、イギリスの文化や歴史、イギリス人の考え方についても講義する。	
		中国語入門	日本のビジネス、観光の発展を考える際、中国は重要なつながりのあるアジア圏を代表する国である。今後海外を視野にビジネス展開をするにあたっては、中国語を知り、学び、理解し活躍の場を広げる必要がある。この授業においては、中国語を聴く、話す、読む、書くことに慣れ親しみ、語学としての中国語の基礎を学び身につけることを目的としている。まず基本的な発音と発音記号を学び、基本単語の発音を発声しつつ正確に聞き取る訓練を行う。次に基本単語を組み合わせる簡単な作文ができる文法能力を養う。そのうえで簡単な自己紹介や日常会話のロールプレイを通して、実践的なコミュニケーションの練習を積み上げる。更に簡単な文を読み解いて、その内容を会話の材料として発話を豊かにさせる。同時にそれらの内容を文字で表現する書く力を育成する。授業を進めるに従って、学生たちが話したい日常会話を比較的スムーズに展開できるようになる。	
	人間と 文化	心理学	私たちは自分や他人の心を知りたいと思うが、実際は複雑でありなかなか「心」を知ることには難しい。一方、サービス業に最終的に就くことが予想される専門職大学の学生にとって他人の「心」を学ぶ「心理学」は重要であり、ヒトとの関わりも含め基礎的学問分野であると考えられる。授業では、心理学の歩みから行動科学としての性格分析、研究、さらに心の動き、基本的仕組みや働きについて概説する。授業の目的としては、ヒトの「心」を理解するために、様々な側面を理解する必要がある。多岐に渡る心理学分野において、その中でも特に発達心理学、社会心理学の両方を理解することを最終目的としている。	主要授業科目
		比較芸術論	人類が誕生したときから、われわれの祖先はさまざまな「美の造形」への挑戦を行ってきた。それは生命体としての本能や宗教的心情を伴った子孫繁栄や健康が籠められ、また死者への弔いの気持ちを表現し、狩猟の成功や作物の豊穡を願って行われたものであった。木片や獣骨を削り、粘土を捻り、壁面に色土を塗りつけ、時には自らの肉体を媒体にして、色を差し、傷を付け、変形させることで、美を表現することが、時と場所を越えて行われてきた。その後、文明の芽生えとともに、金属加工を覚え、大理石や木を刻み、多彩な材料と道具を駆使して、絵画や彫刻、工芸など身の回りのあらゆるものに、それぞれの文化を反映した形式で美しさを表現してきた。そしてグローバル化が進んだ現代は、デジタル技術と情報を用いたメディアアートまで、ますます多様な表現が行われている。この授業では、人類が求めてきたあらゆる分野の「美の造形」を学び体験し、それを日本の文化や美術工芸との対比において理解し、「美しさを求めること」が「楽しくこちよい人生につながる」ことを実感することによって、美容やウェルネスの専門家が備えておくべき素養と教養を身につけ、将来のみずからの仕事に活かせることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	言語とコミュニケーション	身体表現とは、子どもが飛び上がって喜ぶという原初的なものから、舞踊表現としてテクニックから繰り出される洗練されたものまでを含んでいる。目に見える運動する現象である身体表現は、「人間の内的エネルギー」や「ダイナミックなイメージ」を伝えることができる。本講義の目的は、そうしたエネルギーやイメージとして人々が感じる身体表現とはどのようなものか、身体、運動、表現、コミュニケーションの観点から学ぶことである。具体的な内容としては、人は何故身体表現を行うのか、踊るのかについてその意義と価値、身体表現と日常の動きの違い、表現することを感じる、表現の「見えない力」、身体表現の教育的意義、運動とイメージのつながりなどを講義する。さらに、ローラン・ブティ作品「若者と死」とコンテンポラリーダンス作品の映像を通して舞踊作品における多様な表現について説明する。	
	伝統文化演習	華道・茶道は「道」という言葉がつくと、精神性の学びも含まれ日本の教育の大事な役目を果たしている。日本古来より伝わる華道・茶道は、長い歴史の中で、貴族や武士のたしなみから、庶民に広がるようになり、今日に至っている。花を生け、茶をたてて客をもてなす日本の「道」には、客人に対する「一期一会のおもてなし」の繊細な心配りや美学がある。この授業では、日本の伝統文化である華道・茶道を通して、「おもてなし」「美学」を理解し、身につけることを目的としている。 (オムニバス方式／全16回) (39 倉田克史・40 永田清江・41 渡辺博／8回) 華道を学ぶ。授業では「温故知新」を目的として日本の伝統文化に触れる事を理解する。そして、現代生活の中では触れる機会が少なくなった故の価値観を学び、物事を考える習慣を身に付けさせる。生きている草木、根から切り離された限りある命を手に取り体感し、「命」について考える機会を設ける。 (42 神保宗惲／8回) 茶道を学ぶ。授業では、茶道の心得を理解し、相手をおもいやり、正しい所作をもって向き合えるようになり、お客様に対する「おもてなしの心」をもって礼儀や知識を身につける。	オムニバス方式
	ジェンダーとダイバーシティ	本講義は、ジェンダーとダイバーシティの意味を正しく理解し、多様性の観点から、人はどのように生きるべきかについて考えることを目的とする。具体的な授業内容としては、ジェンダーとは何か、ダイバーシティとは何かについてグループでのディスカッションを通して学生自らの考えを発表し、その上でジェンダー・バイアスやダイバーシティとインクルージョンの違いを講義する。次に、身体教育におけるダンス授業はどのように行われてきたか、その歴史の変遷や生徒と教員のダンスに対するジェンダー・イメージについて研究報告を示しながら説明する。さらに日本舞踊、バレエ、舞踏、コンテンポラリーダンスの映像作品からみえてくるジェンダー・イメージについてディスカッションを行い、舞踊芸術における身体表象からジェンダーとダイバーシティについて講義する。最後に、学生自身が講義を通してジェンダーとダイバーシティについて考えをまとめる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
基礎 科目	自然 科学 と 社会	生命科学	20世紀後半から「生命」の仕組みが次々と解き明かされ、21世紀に入ってから、医療上の多様な課題にも大きな成果が生まれつつある。しかし、その中で、多くの人々が社会に溢れる様々な情報を的確に把握できず、不正確な知識や情報に踊らされている状況がある。本授業科目は、保健衛生とビューティ&ウェルネスの基礎となる「生命科学」の基礎知識と考え方を学び、個々の学生が「命」の持つ重みとその未来を守ることの重要性への理解を深めることを目的に設置され、人々が心身ともに健康で幸せな生活を送るためには何が必要かを考える機会と基盤を提供する入門科目として設定されている。 (オムニバス方式／全15回) (14 室伏きみ子／1回) 保健衛生とビューティ&ウェルネスの基礎となる「生命科学」の考え方を学ぶ。 (4 菌部幸枝／14回) 生命科学の基礎知識を学び、生命を維持するための仕組みや環境との関係を知って、ヒトを含めた様々な生命の未来について深く考察する姿勢を身につける。グループディスカッションでは、現代社会が抱える心身の健康に関わる課題について、その解決への手がかりを提案・検討する。さらに、生命現象を遺伝子、DNAから読み解き、生命の継続を科学的に学んで、バイオテクノロジーの発展と倫理的側面の理解を深める。	主要授業科目 オムニバス方式
		化学	本講義は、身の周りの様々な物質や物質に関わる現象を理解するための基礎となる授業である。本講義では、物質の根源は、陽子、中性子と電子から構成される原子であり、構成粒子の数の違いで原子やイオンの性質が決定され、周期性を持つことを最初に理解する。さらに原子の結合により分子が生成し、分子が物質の根幹を成していること、さらにこれらが基になって形成される多様な化合物、すなわち、有機、無機、高分子化合物の構造と性質を理解することを目的とする。化合物の多様性を理解するため、物理的性質である、気体、液体、固体の三態について学習し、化学的性質である、酸化と還元、酸性と塩基性、化学平衡、さらに化学反応の概念を学ぶ。本講義では、身の周りの様々な化合物の性質や現象を理解するため、化学の基礎がそれらにどのように関わっているかを解説する。具体例として、香り、洗剤、栄養、薬、色、繊維、プラスチック、エネルギー、環境などを取り上げ、化学の視点からそれらを眺めることで、今まで理解できなかった事柄を科学的に理解することを本講義の最終的な目標としている。	主要授業科目
		データサイエンス入門	本授業では、データサイエンスの概要と基本的な考え方、活用方法について学ぶ。データサイエンスの必要性、様々な場面におけるデータ活用や有効性とリスクについて理解し、データ活用の場面を適切に捉え、分析・説明できる力を身につける。 そして、実験データや企業の売り上げデータなど具体的なデータを使って、表計算ソフトや統計分析ソフトを活用し、データ処理や変数の変換、データの可視化のためのグラフの作成などデータを処理するための基本的技術を実践的に学ぶ。	
		経済学	1990年代以降、日本経済は極めて低成長の時代になっている。低成長の時代は、多くのケースで、前年を上回る生活水準や事業の成果を手にすることができない。本科目では、経済の構造の説明から、種々の経済現象に対して事前に手を打つ方法など現状の経済状況につながる内容を初めて経済学を学ぶ学生が理解しやすいように学習する。そして、社会に出てビジネスを行なう際のスムーズな橋渡しとなるように経済の仕組みを学習する。その後、「マクロ経済」並びに「ミクロ経済」について学び、ビジネスを行なうための最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	自然 科学と 社会	国際関係論	「地球は小さくなった」と言われるが、まさに現代の社会は一国のみが思惑のままに行動する事が許されず、世界の各地域、そして世界全体において、協調と連携、そして協力と妥協により何とか平和とバランスが保たれているのが現状である。その中で、幾つかの地域では依然として紛争・武力行為が行われており、安定と不安が表裏一体となっている。本科目においては、いかにして武力行為に至らしめず、国際関係を協調の道に進める事の方途について講義したい。具体的には、世界の各地域における連携と協調の現状について討議し、そのうえで特にアジア・太平洋地域を中心に検討を進める。その中で日米関係、日中、日露、日韓朝の関係、更にはASEAN諸国の実情、中近東、そして国連の役割等について検討していきたい。	
		法学概論	本講義では、憲法・民法・刑法をはじめとした我が国の基礎となる法や、日常生活に関わりの深い法律を中心的に取り上げ、難解な法律もわかりやすく解説し、社会人としての素養を高める。これらの法の目的や役割を学び、代表的な規定を取り上げて実際に条文に触れることによって、その法がどのような場面で適用され、どのような効果をもたらすのかについて、また、日常生活でいかに法律が重要な役割を果たしているのかについて、理解を深める。また、裁判手続を中心に、我が国の司法制度の仕組みや基本的な法律用語について学習する。さらに、裁判例をもとにした具体的な事例に対し、法による解決を検討することを通じて、私たちの日々の生活に様々な角度から法が関わっていることを理解し、社会で活躍するために必要な法的知識・思考力を身につける。	
		現代社会論	現代社会はどのような時代だろうか。一言でいえば、「高度に複雑化した社会」である。では、どのようにして「高度に複雑化」したのだろうか。その問いに自らで考えて答えを見つけるのが本授業の目的である。本授業では、現代社会の構造について、歴史的・文化的視点でのアプローチに基づく分析を中心に、社会現象の矛盾や問題点をえぐり出し、それらを克服していく方法、それを担うべきあり方を考えることを目的とする。具体的には、現代社会をとらえるための理論や方法あるいは制度を紹介する。そのうえで、現代社会で生じている現象を分析していく。「ビューティ&ウェルネス」が社会にどのように埋め込まれているのかを自分自身で説明できるようになることが本授業の目標である。授業を通じて社会変動のダイナミズムを自らで感じとり、複雑な社会問題を的確に把握・解明して、解決策立案能力を身につけていく。	
職業 専門 科目	基礎 医学と ヘル ス プ ロ モ ー シ ョ ン	ヘルスプロモーション総論	「ヘルスプロモーション」は、1986年のオタワ憲章において「人が自身の健康をコントロールし向上させることができる過程」と定義されている。「ウェルネス」は心身の健康に加え、幸福、活力、平静、多様性のある自己実現、他者への福祉を含む包括的な概念である。本講義では学生が個人、集団、職域、地域、社会を対象として、積極的にウェルネスを推進する能力、意欲を獲得することを目的として、過去のヘルスプロモーション事例検討にもとづき、現在と近未来の新たな課題を抽出し、明確化する能力を涵養する。事例としては、職域、地域などセッティングごとの具体例に加え、生活習慣病、がん、喫煙、飲酒を対象とした課題解決型の施策を取り上げる。新たな課題の例として新型コロナウイルス感染拡大下でのウェルネス実現を取り上げ、実際に大学コロナ対策を牽引してきた担当教員の経験にもとづき、学生の自主的な情報収集、企画立案を奨励し指導する。本学では、クライアントのメンタルヘルス幸福度、充実度を促進する、メンタルヘルスリテラシーの観点が極めて重要であることから、確立された質問紙票（Questionnaire）を用いた調査手法を習得し、施術の効果を客観的、統計学的に評価する能力を身につける。現代日本の健康は、死亡統計、健康負荷指標（障害調整生存年：DALY）から定量的に捉えることができる。問題となる疾患への理解を促し、増加する社会保障費に対して、どのように貢献し、医療経済の健全化を下支えすることができるかを考えさせ、自覚と理解を促す。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要			
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業 専門 科目	基礎 医学 と ヘル ス プロ モー ション	人体の構造と機能を理解する学問である。医学の基礎となっており、美容師は人体に触れて施術を行うために、人体の構造の知識が必須である。本講義は、学生が将来、美容師になるために必要な人体の解剖学的基礎知識を習得することが主要目標である。身体内部の臓器は、骨格と密接な位置関係で配置されており、身体を切り開くことなく、体表から臓器の位置を知ることができる。ウェルネスにとって重要な人体の動きにかかわる運動器系（骨格系、筋系）に重きを置き、さらに循環器系、神経系、呼吸器系、消化器系、感覚器系の基本構造を学ぶ。	主要授業科目
	皮膚の構造及び機能	本科目では、化粧品、美容施術のプライマリな作用点である皮膚及びその付属器官（毛髪・爪など）について、構造（解剖学）、機能（生理学）および反応（化粧品学、毒性学等）といった視点から解説する。基礎的、古典的な内容に加え、皮膚局所にとどまらないホリスティックなアプローチによる最新の知見をも扱っていく。このことにより、皮膚に対する知見が広がり、顧客に対する技術提供また、技術提案を行う力を身につけることができる。	主要授業科目
	香粧品学	本科目では、皮膚の構造及び機能で学習した内容を基とし、学生が卒業後に業務において使用、または販売することになる化粧品、医薬部外品の一類である薬用化粧品、石けん類など香粧品類について、その定義、成分と製造法、品質、機能などを詳細に解説する。また、化粧品の最前線の研究や従来の化粧品の範疇を超えた製品、サービスの展望なども紹介する。このことにより、香粧品学に対する知見が広がり、顧客に対する技術提供また、技術提案を行う力を身につけることができる。	主要授業科目
	生化学	本講義では、生命現象を体系的に理解するために、生体を構成する物質についての基礎を学ぶ。生化学は、生命体の組成や生体内物質の機能を化学の手法で学ぶものであり、私たちの身体に起こる現象を理解する基礎となる科目である。アミノ酸、タンパク質、糖質、脂質と言った名称は日頃から良く耳にするが、講義を通して、まずこれらの生体を構成する個々の物質についての正確な知識を得る。そのうえで、生化学的な物の見方や考え方を習得し、基礎的な生物学的現象を理解する能力を養う。また、本講義で学んだ生化学の基礎知識を生活における現象と関連づけて取り扱い、生化学をより身近な学問として深く理解出来るようにする。	
	栄養学	ウェルネスの概念では、若さや美しさというのは、基本的には肉体及び精神が健康な状態の結果と捉えることができる。従って、将来ウェルネス産業分野での活躍を目指す者は、栄養素が身体でどの様に作用するか知っておくことが重要である。本講義では、単に教科書の内容を説明するばかりではなく、科学論文の検索の方法や読み方と、講師自身が最新の科学論文を読み、講義を通じて学生に紹介する。講義を通じて習得する栄養学の知識は、5大栄養素（タンパク質、脂質、糖質、ビタミン、ミネラル）を中心にその生理学的な機能、欠乏症、過剰症などについてであるが、臨床試験の結果や文献のシステマティックレビューに基づいて機能を標榜することが認められている機能性表示食品の市場が拡大しており、プロバイオティクスやファイトケミカル等の成分の体内での代謝機能等についても触れる。	
	衛生学	公衆衛生学、環境衛生学、感染症学、美容師法に基づく消毒の定義を学ぶことで、幅広い衛生知識を身につけることができる。公衆衛生学は、社会全体の健康を守り促進するための戦略や政策を理解し、健康問題の予防と健康向上を図っている。環境衛生学は、水質、大気質、土壌汚染などの環境要因が健康に与える影響を評価し、改善策を提案する能力を養うことができる。感染症学は、感染症の原因や伝播、予防、治療方法を学び、感染症の発生を防ぎ管理するための対策を立てる力が養える。美容師法に基づく消毒の定義については、美容行為に使用する器具や設備の消毒方法を学び、感染予防のための適切な衛生管理を実施し、安全な美容サービスを提供する能力を身につけることを目的にしている。これらの学問を総合的に学ぶことで、個人およびコミュニティの健康を維持し、改善するための専門的な能力を高めることを目指していく。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
		公衆衛生学	公衆衛生学を学ぶことは保健医療の骨組みとなるものであり、個別の専門領域においても関連することが少なくない。社会全体を見る目を持ち、その中での美容師として自分たちの役割について理解する。健康の概念、予防医学の基礎・健康増進から始まり、さらに感染症対策を知り、ライフサイクルに応じた母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健、精神保健地域保健、および国際保健、環境衛生の各応用領域の基礎を学ぶ。そのうえで、社会保障と保健医療福祉の制度及び医療法・医療安全の確保について学ぶ。将来美容師として働く際、現場での柔軟な対応力を身につけることを目的とする。	主要授業科目
職業 専門 科目	基礎 医学 と ヘル ス プロ モ ー シ ョ ン	リスク管理、ウェルネス推進のための臨床医学的基礎	美容師やセラピストが臨床医学を学ぶ重要な意義として、1) クライアントの臨床状況を把握しリスク管理を行うこと、2) クライアントの求めに応じて、個人のウェルネスに資する施術を行うこと、の2点が挙げられる。本講義では頻度が高く重要な身体科疾患、メンタルヘルス疾患を概説し、基礎となる知識、疾患メカニズムの理解を促し、実技的な側面への橋渡しを行う。リスク管理に関しては、ことに、アレルギー性疾患および整形外科的な病態を学び、適切な手技、対応を行うための基礎を確立する。施術に由来する有害事象を確実に減少させるために、リスクの考え方、リスクヘッジの視点を教育する。個人のウェルネス実現のためには、精神的幸福度の促進、メンタルヘルスリテラシーが重要となることから、気分障害、発達障害を含む頻度の高い疾患を学び、クライアントのメンタルヘルス状況を把握する能力を養う。さらに、クライアントの求めに応じてどのように安全にウェルネスを実現するか、グループディスカッションを行い、理解の深化を促す。	主要授業科目
		救急法	美容師やセラピストが技術提供、施術や運動療法を実施する際に十分な安全配慮を行うが、皮膚粘膜、関節筋骨格の外傷や化学物質アレルギーが起こりうる。また、顧客は施術とは無関係に、心肺停止などの救急病態を呈する可能性がある。これらの病態の知識、救急対処法を学び、瞬時に適切に初期対応を行う能力を養成する。また、必要時にためらわずに救急医療を要請できる心構えと適切に医療に引き継ぐ方法を教育する。	主要授業科目
		病態生理学	対人サービスを提供する専門職として、健康と病気のメカニズムを知っておくことは重要である。病態生理学は人体の正常な機能が破綻あるいは調節機能異常に基づく疾病と身体機能異常の原因や機序、および経過を理解する学問である。学問体系として、代謝病態生理学、呼吸病態生理学、環境病態生理学、循環病態生理学、脳病態生理学などをはじめ、摂食嚥下障害、意識障害、ショック、電解質異常、メンタルヘルス、加齢など日常よく遭遇する機会がある身近な病態生理について学ぶ。さらに、職業専門科目の基礎医学として位置づけ、学年進行とともに関連科目と統合的に学修することで、実際の業務における顧客やスタッフなどの身体状況の的確な現状分析に基づいて、健康リスクの管理に役立つよう実務に沿った病態生理学の内容で構成する。	
		アンチエイジングの科学	アンチエイジング医学は、21世紀の医学である。一言でいえば、「美と健康長寿」を目的とする医学である。現代の医学は、予防医学へと進み、今は、さらにその前段階へ踏み込んで、未病を目指すようになっている。授業ではアンチエイジングを切り口に、「美とは何か。」「美しく老いるとは。」など、医学の要素にとらわれることなく、文化的背景や概念などについても共に考え学ぶ機会となり、アンチエイジング医学の最新情報や、美を感知する際の脳の働き、認知症とアロマの関係など、より専門的な内容も学ぶことを目指していく。	
		統合医療論	統合医療の基礎的知識を学び、その現状と課題について理解し、西洋医学と比べてどういう違いがあるかを理解する。美と健康を考えるうえでの統合医療の位置付けや可能性について理解し、温泉療法、漢方療法を含む世界の伝統医療についても知識を習得する。従来西洋医学では解決できない事に対して、医療経済の逼迫という事情も加わり統合医療の重要性が高まっている事を理解する。また、西洋医学以外の医療や施術には不確実な情報も氾濫しており、美と健康を目指す上での統合医療の役割について客観的な理解が得られるように講述していく。	

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業 専門 科目	基礎 医学 と ヘル ス プ ロ モ ー シ ョ ン	身体運動学	身体運動は、健康美（ビューティ）にも活動的な身体作り（ウェルネス）にも効果がある。また、生活習慣病の予防・改善にも効果ある。さらに近年、認知症の予防や改善にも有効であるとの研究報告が多くみられるようになってきた。ビューティに関しては、美しい姿勢やウォーキングのような動作の美しさが身体活動と深く結びつくが、その具体的な理論と方法を学び、ウェルネス面では、生活習慣病の予防や改善方法、さらに、健康の土台となる毛細血管での良好な血液循環の維持・増進方法、さらに心の健康に及ぶ身体活動の影響について学ぶ。身体運動を方法論で分類すれば、血液循環系に影響するエアロビクス、筋力系、柔軟運動、神経系であるが、この授業では、それらを総合して学び、ひいてはトータルなビューティ&ウェルネスについて学ぶことになる。	
		運動生理学	運動生理学は、あくまでも生理学が基本にある。従って、授業では、生理学の基本的なことを学び、その上で運動を負荷した際の身体の反応を学ぶことになる。特に、筋生理、血液循環生理、呼吸・代謝生理について、授業のボリュームが大きくなる。身体の生理学的な反応には、男女差があり、加齢に伴う変化があり、遺伝を踏まえた個人差がある。さらに、運動の仕方の差は極めて大きい。このような様々な違いがあることを踏まえての授業では、ビューティとウェルネスをベースに学ぶべきことを優先して授業をすることになる。特に、性差、加齢に伴う変化を重視した授業を行なうことになる。また、日本の将来に向かって注目されている健康寿命の延伸を踏まえた授業になる。	
		運動指導演習	この授業では、人生100年時代と言われる中で欠かせない健康維持向上のための運動指導を学ぶ。生活習慣病のもととなる肥満を改善する運動方法や健康、体力向上を目的とした基本となる有酸素運動、無酸素運動の実践的な運動指導を学ぶ。さらに、それぞれの年齢や体力、美容やダイエットなどの目的に合わせた強度を変えた運動方法やヨガなどの幅広い方法を学ぶ。目的に合わせた適切かつ、効果的な正しい運動指導を行ううえで、より理解を深めるため、アクティブラーニングを取り入れて習得していく。また、運動によるケガ防止として準備体操、ストレッチ、ウォームアップの方法も学び、安全かつ正しい運動指導が行えるプロフェッショナルの育成を目指す。	
		フィットネス実習Ⅰ	フィットネスとは美と健康づくりに欠かせないものである。また少子・超高齢社会において健康を増進し、発病を予防する「一次予防」が重要視されており、正しい知識を持ってフィットネス指導を行える人材が必要とされている。この科目では、まずは自分自身の美と健康を叶えるために正しい知識を学び実践し、「適切な運動プログラムを構成する能力」「自ら見本を示せる実演能力」を身につける。美しいボディラインと健康な身体作りに必須となる「正しい姿勢」について理解を深めていく。有酸素運動を行う前後のフォームアップとクールダウンのやり方を身につける。そして有酸素運動としては、ウォーキングやジョギングの仕方を学び、実施することで、自身の身体を作りながら、顧客に対する的確なアドバイス、運動の提案のできる力を身につける。	
		フィットネス実習Ⅱ	本授業では、主にエアロビックダンスについて理解を深めていく。エアロビックダンスの特徴や構成を理解し、正しい姿勢や動作を学び身につける。そして実践的に行うことで、自身の身体を作りながら、顧客に対する的確なアドバイス、運動の提案のできる力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
職業専門科目	基礎医学とヘルスプロモーション			
	フィットネス実習Ⅲ	本授業では、主に水中運動について理解を深めていく。水中運動の力学・生理学を理解し、安全な運動方法を学び身につける。そして数種類の水中運動を実践的に行うことで、自身の身体を作りながら、顧客に対する的確なアドバイス、運動の提案のできる力を身につける。		
	フィットネス実習Ⅳ	本授業では、人体の筋肉について理解を深めていく。目的別に多種類の筋力トレーニングの方法を身につける。そして効率的な筋肉の鍛え方、美しいボディラインを作る方法を学び、実施することで、自身の身体を作りながら、顧客に対する的確なアドバイス、運動の提案のできる力を身につける。		
	心身の美の追求			
	美容技術理論Ⅰ	美容技術理論Ⅰの授業では、シャンプーイング、パーマネントウェービング、ヘアカラーリングについて、美容師として必要な基礎知識と理論を学んでいく。シャンプーイングでは、頭皮と髪の構造、適切なシャンプー剤の選び方と使用方法、マッサージ技法を学び、髪と頭皮の健康を保つ方法を理解する。また、パーマネントウェービングでは、髪のケラチン構造とパーマの科学的原理、薬剤の選定と使用方法などについて学ぶ。そして、ヘアカラーリングでは、色彩理論、髪の色素と染料の関係、カラーリング剤の種類とその使用方法、カラーリング後のケアについてなどを学ぶこととしている。	主要授業科目	
	美容技術理論Ⅱ	美容技術理論Ⅱの授業は、エステティク、ネイル、メイクについて、幅広い知識と技術の理解を深めることを目的としている。エステティクでは、皮膚の構造と機能、フェイシャルおよびボディマッサージの技法、一部リラクゼーションの重要性について学ぶ。ネイルの技術理論では、爪の解剖学と生理学、ネイルケアの基本、マニキュアやペディキュアの技法、ネイルアートのデザインなどの施術理論を学ぶ。メイクでは、顔の骨格と肌のタイプに応じたメイクアップ技術、カラーバランスと陰影の効果、各種化粧品の使用法などについての基礎的理論について学ぶ。また、アイメイク技術の延長線にあるまつ毛エクステンション理論についても学んでいく。	主要授業科目	
	美容技術の理論と方法	美容技術の理論と方法の授業では、以下の美容技術の基礎理論として重要な項目が含まれている。まず作業姿勢については、美容師の健康と長期的な施術能力を維持するために、正しい姿勢と動作の基本を学ぶ必要がある。具体的には腰痛や肩こりを防ぐための姿勢の調整や長時間の作業に適した姿勢について学ぶ。次に美容用具の名称および使用方法については、シザーズ、コーム、ブラシ、ヘアドライヤー、アイロンなどの各種道具の使用法と構造について学ぶ。これにより、適正な道具の使用法を安全かつ効果的に使用することが可能になる。各用具の特性を理解し、適切に使いこなすことが求められている。そして、ヘアデザインの基本的な考えに関して、美容とデザインの発想やバランスについてを学び、色彩や形状、質感の組み合わせを工夫することで、顧客に最適なスタイルが提案できる理論を学ぶ。	主要授業科目	

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業 専門 科目	心 身 の 美 の 追 求	美容技術応用理論	この授業では、ヘアカットtingとヘアセッティングの技術理論を学び、ヘアスタイルを構成する基礎技術の理解と応用的発想力を養うことを目的としている。ヘアカットtingでは、毛髪構造や成長サイクルなども理解し、基本的なカット技法（ワンレングス、グラデーション、レイヤー）の理論を学ぶ。また、シザーズやレザーによるカット技法の特徴や適用方法についても詳述をする。ヘアセッティングでは、ブロー乾燥やヘアアイロンの使用法、カーラーやピンを用いたセット技法などについて学ぶ。更に、美容師国家試験実技課題の一つであるオールウェーブセッティングを構成するフィンガーウェーブや各種ピンカールについても理論を理解し、幅広いヘアスタイルを制作できる知識を身に付ける。	主要授業科目
		美容総合演習Ⅰ	美容総合演習Ⅰでは、日本髪と着付け技術の理論を学び、日本の伝統美を理解し、実践するための基礎知識を身に付けていく。日本髪の授業では、各種伝統的な日本髪のスタイル（例：桃割れ、丸髷、高島田など）の歴史と特徴、日本髪の結い方や道具の使い方を学ぶ。また、現代における日本髪かつらの取り扱いについても触れていく。着付け技術の理論授業では、着物の種類とそれぞれの特徴、基本的な着付けの手順（例：長襦袢の着方、着物の着付け、帯の結び方）を理解する。さらに、季節や行事に応じた着物の選び方や、動きやすさと美しさを両立させた袴についても学ぶ。これらの知識を駆使して、日本の伝統と現代の融合が図れる知識を養う。	主要授業科目
		美容総合演習Ⅱ	この授業では、美容基礎技術の実際を学んでいく。シャンプー、ブロー、ヘッドスパ、マッサージなど、基本的な施術を実際に行いながら技術の理解を深める。また、髪健康管理や頭皮ケアの基礎知識も学ぶ。理論と実技を織り交ぜることで、技術の背景にある科学的根拠を理解し、効果的な施術方法を身につける。さらに、基本的な衛生管理と安全対策についても学び、プロフェッショナルとしての基礎的なマナーと倫理を養う。この授業は、将来の高度な技術習得のための重要な土台を築くことを目的としている。	主要授業科目
		美容総合演習Ⅲ	この授業では、カラーリングとパーマの技術を専門的に学ぶ。基本的なカラー理論や薬剤の知識、カラーの選び方と施術方法について習得する。また、最新のトレンドカラーや特殊なカラー技法についても学ぶ。パーマ技術では、基本的なロッド巻きからハードパーマ、ストレートパーマなど、さまざまなパーマ技法を実践する。薬剤の選定や施術時間の管理、ダメージを最小限に抑える方法についても検証を試みる。この授業は、カラーリングとパーマにおける高度な技術を習得し、顧客に対して幅広いサービスを提供する能力を養えるようにする。	主要授業科目
		美容総合演習Ⅳ	この授業では、カットとヘアセッティングの技術を中心に学んでいく。基本的なカットの技法から始まり、レイヤーカット、グラデーションカット、ボブカットなど、多様なスタイルを習得する。また、骨格に合わせたカットの理論と技術、最新のスタイリングトレンドについても学んでいく。さらに、スタイリング製品の選び方や使用方法についても学び、顧客のニーズに応じた提案力を養う。この授業は、カットとスタイリングにおける専門的なスキルを高めることを目的としている。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業 専門 科目	心 身 の 美 の 追 求	美容総合演習 V	この授業は、美容技術の基礎から応用までの総復習を行っていく。シャンプー、ブロー、ヘッドスパなどの基本技術から始め、カット、カラーリング、パーマ、ヘアセッティング技術を理論と共に学ぶ。また、エステティック、ネイル、メイクなどを含めた技術理論の復習もしていく。そして美容師国家試験に関連をする技術と理論を総合的に復習をし、美容師国家試験の合格を目指す。	主要授業科目
		美容総合演習 VI	この授業では、美容技術の基礎から応用までを理論を含めて総復習をしていく。特にヘアセッティングやパーマメント技術を始め、カット技術などを総合的に学ぶ。また、美容師国家試験受験課目に該当をする技術と知識を徹底的にカバーをする。模擬試験や実技試験のシミュレーションを通じて、試験の形式や要求される基準を理解し、自信を持って臨むための準備も行う。これにより、美容師としての総合的な知識と技術を確立し、即戦力となれるようにしていく。	主要授業科目
		ホスピタリティ論	現代のビジネスは、顧客との価値共創の時代であり、ホスピタリティという言葉は、サービス産業のみならず、様々な組織で使われている。この授業では、ホスピタリティという聞き慣れた言葉ながら漠然とした概念を、ハード、ソフト、ヒューマンの観点から考察することで理解し、「ホスピタリティ」を自分なりの言葉で表現し、行動として表すことができるようになることを目的とする。ホスピタリティの精神については、歴史、文化、哲学などの考察、現代に至るまでの定義を学習することにより、概要を理解する。サービスとホスピタリティの比較、コアサービスとサブサービス、顧客満足と従業員満足の関係、チーム力、日本のおもてなしなど、身近な話題を用いながらホスピタリティの本質を理解していく。現代におけるホスピタリティの発揮のされ方を、企業や店舗の事例を分析し、その要素をまとめることで、生活や将来のビジネスに生かす地盤を作る。	主要授業科目
		ホスピタリティ演習	ホスピタリティは、お客様とサービスを提供する者との双方向の働きかけで成り立っており、主にヒューマンの面がクローズアップされる。しかし、ハードやソフトの面にもホスピタリティは大きく関わっており、サービスの品質を決定づける要素となっている。ハード・ソフト・ヒューマンの各要素を含めたホスピタリティを、現場でどのように発揮していくかをテーマとする授業である。この授業では、サロンをコーディネートする者として、サロン運営に必要な空間づくり、人が心地よいと感じる環境づくり、お客様視点の設備の整え方や具体的な接客などを学習し、お客様視点での運営が行えるようになり、選ばれるサロンを運営することが可能となることを目標としている。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要			
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業 専門 科目	心 身 の 美 の 追 求	私たちは日常生活の中で、お互いに相談したり、頼ったりしながら生活している。一方、近年若い人は利他的に生きようとする人が増えて来ており、一人であることが楽だと言う人も少なくない。授業では、カウンセリングの基礎となる理論と心理臨床的アプローチの基礎、さらにコミュニケーションスキルを学び、実社会の場面で自己を見失うことなく、適切なコミュニケーションがとれる基礎を作り上げることを目的とする。 (オムニバス方式／全8回) (36 横田悠季／4回) 自己認知と対人認知を理解するために理論を中心とし、カウンセリングの内容や性格検査の分析方法を学ぶ。性格分析を使用しながら、実際のカウンセリングがどのように実社会で役立つかを様々な視点から考察し、人間関係にいかに関係が有効かについて理解する。加えて、コミュニケーションスキルについて解説するとともに、ロールプレイを体験する。 (33 齋藤勝／4回) 心理学的カウンセリングの手法を美容上の悩みや心の悩みのために、美容技術に導入した、美容カウンセリングについて学ぶ。	主要授業科目 オムニバス方式
		美容師として大切なことは、お客様と寄り添うことである。本科目では、顧客の希望を聴く「コンサルティング」と顧客に要望を叶えるための提案をする「コンサルティング」を理解する。そして、臨地実務実習で実際のカウンセリングを体験し、カウンセリングの流れとカウンセリングに必要な能力を正しく理解すること、顧客に技術を説明するために必要な知識と説明する能力を身につけることを目的とする。 (オムニバス方式／全8回) (36 横田悠季 / 4回) カウンセリング技法を用いた演習を行い、人間理解と対人関係の在り方について理解を深める。 (33 齋藤勝 / 4回) 実際にサロンで使用されているカウンセリングシートを用いて、顧客のニーズをくみ取り、提供するサービスを決定するプランニング能力、コンサルティングを身につける。	主要授業科目 オムニバス方式
		美容技術の基礎として、コームやシザーズの正しい持ち方や姿勢、器具用具の扱い方を習得します。頭の部位別の作業や髪の扱い方に関する技術を学び、特にワインディング技術の練習を通じて実践的なスキルを磨きます。また、シャンプー技術についても習得し、顧客の満足度を高めるための基本技術を身につけます。本授業では、実際の現場で即戦力となるための基礎知識と技術を体系的に学びます。	主要授業科目
		前期に引き続き、美容技術の基礎を中心にコームやシザーズの持ち方、正しい姿勢、器具や用具の取り扱い方を習得いたします。次に、頭の部位ごとに異なる作業手順や髪の扱い方について、理論と実技を通じて理解を深めます。例えばワインディング技術の練習を行い、カールやウェーブの作成技術を磨き、それと同時に正しい作業を行う立ち位置について学びます。さらに、シャンプー技術練習を通して、直接的な毛と頭皮の健康を保つための適切な技術を習得します。これらの技術を組み合わせ、顧客のニーズに応じた高品質な施術が行える技術の修得を目指します。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業 専門 科目	心 身 の 美 の 追 求	美容実習Ⅲ	1年次で学んだ技術の作業速度や効率を向上させるため、ワインディング技術を中心に反復練習を行います。また、髪のパリュームと動きをスタイル構成の基礎として学習するために、ヘアセッティング技術を併行して習得します。さらに、髪の扱いに慣れるため、ヘアアレンジやアップスタイルの技術習得も行います。その他シャンプー技術などの実習も継続します。	主要授業科目
		美容実習Ⅳ	美容実習Ⅲに続いて各美容技術の反復練習を行って行きます。そして、ヘアセッティング技術の修得は、国家試験課題にもなっている、ノーパート7段構成のオールウェーブセッティングが完成できる技術を習得します。その他、相モデル実習方法により、シャンプー技術を向上させる実習を行います。	主要授業科目
		美容実習Ⅴ	国家試験における実技課題（カット・ワインディング・オールウェーブセッティング）の構成を理解し、試験基準を学習していきます。また、1.2年次による自分自身の技術や知識不足を振り返り、美容師国家試験受験に向けて、重点的技術練習を行います。また、ヘアスタイルを構成する要素として重要なヘアカラーリング技術についても学びます。	主要授業科目
		美容実習Ⅵ	美容実習Ⅴに続くように、前期からの各実習を継続訓練し、作業時間の向上を図ります。4年次の美容師国家試験受験に向けて、道具の衛生取り扱いについても実習の中で学びます。引き続きその他の技術についても技術向上を目的とした練習を行います。	主要授業科目
		美容実習Ⅶ	1年次～3年次まで行ってきた技術練習の総復習として、国家試験課題（カット・ワインディング・オールウェーブセッティング）を中心とした、美容技術の基礎的技術を見直していきます。3年次後期から行っている、衛生取り扱いを意識した作業が出来るように、徹底をした訓練を行います。また、国家試験課題がどのように組み合わせられても、各課題が制限時間内に作成できるレベルまで技術を向上させます。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業 専門 科目	心 身 の 美 の 追 求	美容実習Ⅷ	4年間の技術訓練の集大成として、美容師国家試験を受験します。合格基準を確実に上回る得点を目指し、国家試験課題を確実に作成できる技術を習得します。模擬試験を繰り返し行い、万全の準備を整えます。同時に、実社会で通用する接客マナーも習得します。	主要授業科目
		サロン実習Ⅰ	この臨地実務実習では、美容室における実際の基礎技術および現場理解を目的としている。最初の前半期間は、シャンプー、ブロー、ヘッドスパなどの基本的な技術を見習う。後半は、受付業務や予約管理、清掃などのサロン運営に関する実務を経験する。これにより、サロンの運営全体を理解し、チームの一員としての役割を認識することができる。実習期間中は、先輩スタッフからの指導を受けながら、実際の顧客対応を通じて基本的な接客スキルを醸成していく。	主要授業科目
		サロン実習Ⅱ	サロン実習Ⅱでは、さらなる応用技術と接客スキルの向上を目指す。カットやカラーリング、パーマなどの実際の施術を間近で見習っていく。技術研修会に参加をする機会を利用して、ウィッグやモデルを使用した技術練習を行い、実践力を高めていく。また、先輩美容師のカウンセリング技術を学び取り、顧客のニーズに応じた提案力を養えるようにする。接客面では、クレーム対応やリピート客のフォローアップなど、より高度な顧客対応のスキルを身につける。サロンでの実習を通じて、プロになる自覚を深める。	主要授業科目
		サロン実習Ⅲ	臨地実務実習3年目となる本科目は、専門技術の総合理解や経営的視点なども養っていく。特殊なヘアカラー技術や最新のパーマメント技術、トレンドを取り入れたスタイリングなど、専門性の高い技術を見習う。また、個々の顧客に対するパーソナルなサービスの提供を目指し、カウンセリング力の強化を図る。独立を視野に入れた経営知識やマーケティング、ブランディングの基本も学ぶことを目標にしている。実習の最終段階では、サロン運営を模擬的に一部を任せていただき、実践的な経営スキルを体感できるようにする。これにより、即戦力としての能力を高めていく。	主要授業科目

授 業 科 目 の 概 要			
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業 専門 科目	心 身 の 美 の 追 求	メイクアップとは、自分の可能性を高める手段の一つである。こうなりたいとイメージしたときに、メイクはそれを実現してくれる方法として広く認知されている。メイク技術とは、年齢を問わずメイクで自分自身の外面を表現することができ、メイクを施した自分自身を見ると華やかな気持ちや、緊張感が出るという気持ちにもなれるなど様々な感情を与えてくれる心理的效果をもたらせ、内面的効果としてもメイク技術は影響を与える事となる。メイク技術とは単に表面的にキレイにすることや、肌のトラブルを隠すだけのものではなく、自己表現の一つともなり、気分向上や、生きる活力を与える事が出来る重要な役割を持っている事も併せて理解する。本科目では、化粧品心理学を活用し、日常生活で与えている表情からの印象を学ぶ。そして、印象から始まる対人関係について考察し、よりよいコミュニケーションを学ぶ方法を身に付ける。そして顧客が思い描いているメイクを提案できるようになるために、メイクアップの技術を理解し、技術力を身につけていくことを目的とする。まずは、化粧品心理学を中心とした内容を学び、顔研究、化粧品心理学の研究の動向を概観し、人間の顔や化粧が人々の心や行動に及ぼす心理学的知識の獲得を目指す。また、メイクアップ技術の基礎実習を行い、メイクアップ商材の扱い方、各フェイシャルパーツの技術特性、カラーの与える印象など習得することを目指す。	主要授業科目
		メイクアップは、単に化粧という概念ではなく、心と身体を美しく維持するための重要な技術であり、世界的評価の高い、化粧品と高度な技術は、日本が世界に誇れる文化でもある。本科目では、メイクアップ実習Ⅰで修得した知識と技術を前提として、その応用を学び、顧客の要望にもとづいて、肌の状態やメンテナンス状況を把握し、個々の肌に合う化粧品やメイク方法、日常的なスキンケアについてアドバイスを行えるようになることが目的である。顔の形態による印象について、顔のゴールデンバランス、顔の成熟度、顔の性差などを中心に、持てる知識や技術をどのように応用すべきかを詳細に学び、応用的なメイクアップに関する知識と技術を修得する。	主要授業科目
		本科目では、ネイルに関する歴史や皮膚科学を組み込んだ知識を学びながら、ネイルケアからネイルアートまでの基礎技術を習得する。ネイルの予防美容や福祉高齢者美容に対して理解を深めることで、ネイル技術の可能性を考察できるようにする。また、ネイルデザインなどを通して美的感性を学び高めることで、顧客の要望を体现できるネイル技術を身につける。 ネイリスト技能検定3級レベルを理解し、ネイルケアからアートまでの一連の技術を習得することで、顧客を意識したネイルケアができるようになり、各テーマに沿ったネイルアートを時間内に実施できるようにする。	主要授業科目
		本科目では、ネイルデザイン実習Ⅰで学んだ基礎知識・技術を基に、さらに高度な知識と技術を学び、それぞれの技術で実際の現場で生かせる人材育成を目標とし、ジェルネイルを学習する。また、現代人が抱える様々な足のトラブルを避け、足の健康を維持し全身のコンディションを整え、健やかで美しい趾を育めるようにフットケアの知識・技術を学び、自身及びお客様の健康・美的管理が出来るようになることを目標とする。そして、未熟な技術や商品知識の浅さからトラブルを招くこともあるため、正しい知識と安心・安全な技術を習得する。また、フットケアの知識・技術を学び、自身及びお客様の健康・美的管理が出来るようになるとともに、JNAジェルネイル技能検定初級レベルを理解し、健康・美的管理を行うセラピストとして、手指のケアの継続、強化を行いジェルネイル技術を学んでいく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業 専門 科目	心 身 の 美 の 追 求	トリートメント基礎理論Ⅰ	日本のエステティックは、西洋文化の流れを汲んだ技術と、日本文化、中医学を元とした技術を融合し発展してきた。このような特性を理解し、学問的な知識とプロフェッショナルとして習得する技術を身につける必要がある。この授業では、これらの考えに基づき、エステティック技術で必要とされる基本的理論と技術を統合的に結びつけていく。また、各資格取得や顧客のニーズに合わせた技術や知識を選択し、対応することのできる能力を育成する。
		トリートメント基礎理論Ⅱ	近年、社会的に蔓延する精神的ストレスの増大があり、そのストレスは健康や美容にも大きな影響を及ぼしている。これにより現代では、ストレスの増大、長寿高齢社会を背景に“Total Well-Being（心身ともに健康で美しい幸せ）”を目指すライフスタイルを体験、学ぶ施設としてスパが注目を集めている。この授業では、スパとストレス、ホメオスタシスの関係について、現代のニーズに必要なスパ施設について、ウェルネスに有効なリラクゼーション効果の高い様々なプログラム、スパトリートメントについて学ぶ。また、エステティックサロン・スパ施設・ホテルなどにおける顧客のニーズを知り、その施設で働くセラピストに求められる役割と必要な素養について学ぶ。
		トリートメント技術の 理論と方法	セラピストとして活躍するために、身体や肌の構造、働きを理解し、顧客に対して安心安全な技術の提供を行えるようになる必要がある。そのためには、技術に関する実技理論を身につけることが重要である。本科目では、「人体の構造及び機能」、「皮膚の構造及び機能」、「化粧品学」、「トリートメント基礎理論Ⅰ・Ⅱ」の授業内容を基とし学習する。学習してきた理論を実際の技術へと活用できるように手技、化粧品、機器との関係性を理解する。そして、各技術が、顧客に対して、より安全で安心を与えながら効果を出せる施術方法を学ぶ。
		ボディトリートメント 実習Ⅰ	本実習では、ボディの施術における基本テクニックである、軽擦法・強擦法・打法・圧迫法・振動法・揉捏法（6手技）を用いたハンドテクニックを中心に実習を行い、技術を習得する。6手技は応用につながる重要な技術の為、技術名称、技術効果の理論を第1回目で行い、それを理解して施術を行うことでより効果的に習得していくことを目的とする。また、社会へ出て長く活躍できるセラピストになる為には、施術を行う際のセラピストの身体の使い方、体重移動を身につけることが大切である。施術効果に加え、数種類の化粧品を使用することで、技術・化粧品効果の相乗効果を学ぶ。
		ボディトリートメント 実習Ⅱ	本実習ではボディ機器である、超音波機器、低周波機器、吸引機器（ボディサクション）に加え、WAX脱毛の知識を学び、実習を行う。ボディ機器の正しい使用方法と効果を学び身につけることで、ハンドテクニックだけでは実現できない顧客の悩みの解消や希望を叶えることができるようになることを目的とする。WAX脱毛については、一時脱毛としての有効性を理解し、安全かつ仕上がりがきれいでいる技術を身につける。また、脱毛時に行える老化角質への効果も理解し、ボディトリートメントの一つとして実習を行う。

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業 専門 科目	心 身 の 美 の 追 求	フェイシャル トリートメント 実習Ⅰ	セラピストが行うフェイシャルトリートメントは、全身美容として、胸、首、背面、顔面等に対し、肌や身体を健康的で美しい状態に保護、保持するために行うものであり、顔面だけの表面上の美化行為とは異なった手技や機器による施術行為であることから、美容師が行う美顔施術とは、その目的、方法及び対象を異にしている。 本実習では、全身美容としてのフェイシャルの施術における基本テクニックである、軽擦法・強擦法・打法・圧迫法・振動法・揉捏法（6手技）を用いたハンドテクニックを中心に実習を行い、技術を習得する。6手技は応用につながる重要な技術であるため、技術名称、技術効果の理論を第1回目で行い、それを理解して施術を行うことでより効果的に習得することを目指す。①メイクを落とすためのポイントクレンジング、②ハンドで行うクレンジング（デコルテ、フェイシャル）、③肌の血行・リンパの流れを促すためのハンドトリートメント、④基礎化粧品を使用した整肌、この4つの工程をそれぞれ学び、最終的に個々のクライアントに安全に技術を提供できるような技術習得を目指す。また、使用する化粧品の種類・正しい使用方法・効果を知り、トリートメントと化粧品による相乗効果が得られるような技術と知識を身につける。	
		フェイシャル トリートメント 実習Ⅱ	本実習では、全身美容としてのフェイシャルトリートメントで用いるフェイシャル機器である、栄養導入機、吸引機器（パター）、高周波機器、超音波機器、ディーブクレンジング（ブラシピーリング、サクション、ピーリングクリームなど）、パックについて学ぶ。機器の機能を学ぶことにより、ハンドテクニックだけでは実現できない顧客の悩みの解消や希望を叶えることができるようになる。機器の正しい使用方法、注意事項、禁忌事項を理解し、常に正常作動するように日々の点検方法やメンテナンス管理を学ぶことにより、安全で効果的な技術を提供できるようになる。	
		美容文化論	日本の理容業・美容業の歴史、ファッション文化史日本編及び西洋編、礼装の種類について学ぶ。授業では、以下の内容の取り扱いをしていく。まず、日本の理容業・美容業の歴史では、江戸時代から現代までの変遷と主要な技術・文化の発展を学ぶ。次に、ファッション文化史日本編では、縄文・弥生時代から現代に至るまでの日本の服飾文化の変遷とその背景を探究する。一方、西洋編では、古代エジプト・ローマから現代に至る西洋のファッションの歴史とその影響を学び取っていく。さらに、礼装の種類については、和装と洋装の礼装の種類やその意味、着用シーンについて学ぶ。この授業を通じて、理容業・美容業およびファッション文化の歴史的背景と現代への影響について深く理解することを目指している。	主要授業科目
		美の変遷と展望	美容における「美と心身の健康美」は、あらゆる形で私達の生活や社会の中に存在する。人は誰もが「美しくありたい」「健康でありたい」と願うことは国籍、年齢、性別、時代を超えて永遠の課題である。この科目では、国内外の美容の歴史と文化、美学の必要性を学ぶことで、西洋と東洋における美意識の違い、美容の領域、役割を考察していく。また、今の自分の思いと、10年後、20年後の自分をイメージしながら、生涯のビジネスや人生にどう活かして行くか、実践と共にあらゆる角度から見せる美意識と満足度とは何かを考え、未来に向かって業界の更なる発展、新たな美容の可能性と展望を見出し、ビジネスに活かせる知識を身につけて行くことを到達目標とする。 (54 公文裕子 / 1回) 「美」の定義について学び、その形と価値観について理解する。 (55 鈴木ひろ子 / 7回) 美容の歴史について学び、美容業界の現状を理解し、今後の展望について考察する。 (56 謝恵玲 / 7回) 身体の装飾文化について学び、美学に関して各自でテーマを決め、プレゼンする。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
職業 専門 科目	心 身 の 美 の 追 求	色彩学	カラーコーディネートの基本は、色の属性を見分ける力を持つことから始まる。この講義では、色の三属性（色相・明度・彩度）やさらに色の清色・濁色の違いを配色カードや「人の顔」を試金石として学び、色の見分ける力を徹底的につける。そのうえで、個々の色のイメージ、組み合わせ（配色）、感情効果など色彩に関する知識を学ぶことで、目的に沿った配色を施すことができるようになる。また、人の顔を試金石として学ぶことにより複雑な色の効果を習得でき、「美の提供者としてのスキル向上」を多に見込めることができる。さらに、人の視覚から得られる情報量は約8割を占めると言われ、その中でも色彩の役割は多大な影響力をもたらせており、「生活者としてのQOLの向上」も期待できる。	
		アロマセラピー演習	嗅覚と香り分子に関する基礎知識と、香りによる心理的効果を感性デザイン（統合された五感のデザイン）の学術的検証をベースに理解する。精油や香り分子の薬理的な効能に限らず、香りのサービス、または香りの商品が生み出す付加価値について、また、その創出価値の定量化に関しても幅広く学習する。実際にビジネス界でおこなっている香りの感性デザイン検証や商品開発のケーススタディーを取り入れながら、理論と感覚を両立した体験型の演習を行う。香りが心を動かす要因を科学的・学術的な視点から習得し、心身共のwell-being、顧客満足度の向上や幸福度の向上に寄与するような香りの活用方法を演習を通じて考える。	
		ホリスティックセラピー 実習	この授業では、伝統的な技術であるフェイスマッサージと、自然療法を取り入れたボディセラピーを学ぶ。日常のスキンケアや食生活から作られている肌、および日常動作・姿勢や運動・栄養を基にできている身体の状態を技術者が分析を行ったうえで、皮膚や筋組織、脂肪や神経組織に効果的に影響を与えられるテクニックを習得する。また、このトリートメントが、自律神経のバランスを整え、免疫力を高める効果をもたらす理論を理解し、その説明ができるよう実習する。お客様が心身ともに安心して受けられるよう、気遣い、心遣いのある究極のセラピー、トリートメントを学ぶ。	
		ファッション コーディネート 実習	この授業では、ファッションとの美的感性の向上を図る一つとして、ヘアサロンでも施術されているヘアアレンジ技術を、毛流れやフォルムから学び、ヘアデザインの基礎を身につけていく。更に、着物の着付け技術について、簡単なおしゃれ着の浴衣着付けや帯結びについても学ぶ。そこにヘアアレンジを加えていき、最終的にはヘアスタイル及び着付けをトータルで仕上げるファッションコーディネートの基礎的技術を身につける。ファッションコーディネートの学びを通して、第一印象をさらに良くすることや、重要なコミュニケーションツールになることを理解し、自分を視覚言語として表現できる力を身につける。	
		トータルコーディネート 実習	美容は生き方。日常生活において、様々な人達との関わり合いの中で生活する私達にとって、美容は重要なコミュニケーションツールである。トータルビューティという言葉が社会のあらゆる場で使われているが、真のトータルビューティとは何か、必要性和意義を理解し、また、トータルビューティを生活の中でどう活かしていくかを学び、考え、身につけることを目的とする。この科目では、トータルビューティに関連する知識と応用を実習を通して学習する。色彩、デザイン、コーディネート等を学び、作品発表を行うことで、美と感性を磨き、プロとして見せる技術を習得させ、将来は顧客が求める美の追求と、提案が出来る人材育成をしていく。 (54 公文裕子 / 1回) 美容やファッションに合わせたトータルコーディネートの重要性について理解する。 (55 鈴木ひろ子 / 7回) トータルビューティに関連する知識と応用を実習を通して学び、イメージに合わせた色、素材、デザインを研究する。 (56 謝恵玲 / 7回) メイク、ヘア、服、靴、バッグ、アクセサリでコーディネートを作ってプランシートを作成し、発表する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	経営の基礎		
	経営学概論	本講義は、初めて「経営学」を学修する学生を対象に、現代の経済社会の重要な担い手である「企業」に関して、その成り立ちや存在目的・意義や仕組みを基礎から理解していくことを主な狙いとしている。企業を経営（マネジメント）していく上で重要な資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」それぞれが持つ特性と望ましい活用方法などを、その歴史的な理論の発展過程を学ぶとともに、さらに現代社会との関りにおいて求められるようになってきた新たな課題を学んで、それらへの対応を自ら考察することを通して、これからの社会に求められている企業経営の在り方を実現していくための知見を修得する。また、企業経営を単に経営者の視点だけでなく、その中で働く労働者、存立のために不可欠な消費者・取引先、地域社会、投資家・株主、政府・自治体など多面的なステークホルダーからの要請・役割などをより掘り下げて考察することで、在るべき企業経営の姿を追求していく思考態度と実践力の基本を身につけることを目的とする。	
	ファイナンスの基礎	ユニークな「事業アイデア」さえあればビジネスとして成功する、というものでもありません。そのアイデアを「事業機会」に結びつけることが大切である。具体的には、お店や（中小）企業の経営、もしくは新たに起業する際には、事業資金を調達し、その資金を元にビジネスを行なうことによって成長することが望まれる。本講義は、事業アイデアを実現するための数値化、すなわち「資金の調達方法」、その「資金の管理方法」、そして「成長した資金の配分方法」について学習する。財務会計やファイナンス分野の基礎を学び、講義終了時には、投資プロジェクトの算出やビジネスプランの策定が可能となる。	
	人材育成論	企業組織では、人的資源の活用と育成抜きには活動が成立しない。そこで重要となるのは、人が人材として育成され、また自らが成長していくことである。本科目では、人が企業社会の中で多様なキャリア形成を通じて多様な職業能力を獲得することの意義と方法、課題などについて学ぶ。賃金や労働時間など現在の雇用システムについて理解を深める。そして、幸せな職業人生を送ることの意義と重要性を理解し、自身のライフイベントやキャリア形成を考えることで、その実現のために必要な要素とは何かを主体的に考えられる人になることを目指す。	
	経営組織論	現代の企業経営は、組織によって成り立っている。一人ではできないことには限りがある。人が集まってきて組織を作り、目標の達成に向かって各人の力を結集すると、1+1が3になったり4になったりする。ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を経営目標の達成に向けて上手く活用するためには組織の力が不可欠である。この授業では、組織の定義を皮切りに、組織の成立条件とされる組織目的、コミュニケーション、貢献意欲について詳しく紹介し、組織について考究できるようになるための出発点となる見方を学ぶとともに、組織の構造とプロセスについて、リーダーシップや経営資源として変化する人に焦点を当てて、組織の安定的な活動がいかんして可能になっているのかを理解し、多面的に考察する力を磨くことを目指す。	
	マーケティング論	日本マーケティング協会は、「マーケティングとは、企業および他の組織がグローバルな視野に立ち、顧客との相互理解を得ながら、公正な競争を通じて行う市場創造のための総合的活動である。」と定義している。本科目では、この定義による基礎を踏まえながら、グローバルな視点やデジタルマーケティングなどにも言及しながら、講義を進める。「儲け続ける仕組みを作ること」を講義の基本におきながら、自社の利益はもちろん、顧客、社会にとっても有益で持続可能な仕組みづくりを学べる内容とする。そして、美容産業やウェルネス産業の発展を目的としたマーケティングが実施できるよう、グループワークを取り入れることで、関連な学生の主体性を伸ばす講義とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	経 営 の 基 礎	経営戦略論	本講義は、前年度に学修した経営学概論をさらに発展・応用させて、企業経営をより効果的に推進していくための「経営戦略」、すなわち経営戦略の定義・策定手法・具体的アプローチについて理解するとともに、戦略の分析と策定能力およびマネジメントの実践に活用しうる知見を修得することを狙いとする。ますます先行き不透明化し多様化・グローバル化する現代の企業社会において、自社の強み・弱みの確に把握し、有効なコア・コンピタンスをいかに構築していくか、その結果として、消費者あるいは社会に求められ、評価され、愛されるような、美しく且つしなやかな企業経営の実現に資する能力がより一層求められるようになってきている。そのためにケーススタディも取り入れながら、経営戦略を立案・実践していく上での課題を発見する力、そしてそれを解決するためのイノベーションやマーケティング改革を実現していく力を涵養し、それらを実践に結び付けていく上で必要な基本能力を身につけることを目的とする。	
	美 容 ・ ウ ェ ル ネ ス 産 業 の 振 興	ヘルスケア産業論	ウェルネス産業分野で活躍する専門職が知っておくべきヘルスケア産業の国内外市場は、SDGsが目指すSociety5.0の2030年に向けて急速に拡大し、経済成長戦略の柱の一つになっている。ヘルスケア産業を構成する医療（medical）、保健・予防（health）、健康（wellness）、美（beauty）分野の動向について解説し、専門職人として必要とされる新たな次世代ヘルス産業の知識を理解し、創造を促すことを目的とする。健康を社会共通資本と認識し、ヘルスケアサービス事業者、国、地方自治体、保険者、医療機関等の連携推進による社会的価値の高いビジネスモデルの構築がイメージできるような情報提供で、基礎科目、職業専門科目、展開科目が繋がるリテラシーを身につける。	
		サービス科学の基礎	サービスの特徴は、あらかじめ作っておくことができない点にある。ものであれば、余裕のあるときに生産して倉庫に保管し、必要なときに取り出してくればいいが、サービスはそうはいかない。需要が発生する都度、提供することが求められる。作り貯めておくことができないことから、サービス産業では製造業とは異なる工夫が必要とされる。顧客の来店に合わせて人員を配置するとか、顧客に提供するサービスの内容に応じた財の調達を効率的に行うといったことが求められる。この科目では、サービス産業が持つ特性を理解し、サロンの効率的な運営に必要な情報の収集、人の手配、財の調達、価格設定のあり方の基本を学ぶ。同時に特定の日時に顧客が集中しないようにする工夫についても学ぶ。時間帯による割引の仕組みを入れたり、ポイントを活用したりすることで、来店客の平準化を図ることができる。多くのサービス企業で取り入れられている仕組みを美容産業・ウェルネス産業にも応用できることを確認する。	
		美容関係法規	美容業界において消費者保護の社会システムがどのように機能しているか、消費生活全般の法体系を基に理解する。消費者が安心して安全に豊かな消費生活を送れる消費者市民社会とは何かについて、学生各自がその一員としてどう実行すべきかを考察し、美容業界でどのようにその知識を活かせるかを、美容関係法規をはじめ消費者法規の基礎と実際に起こるトラブル事例を通して検証する。そして、安全対策や防止策を検討し、美容業界の健全化に活かせる人材となることを目指す。美容師に必要な関係法規（美容師法、理容師法、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」など）について理解することで、消費者の立場を理解するために、消費者保護の社会システムを学ぶ。消費者が安心して安全に消費生活を送れるよう消費者法規の基礎を理解する。また、美容業界の健全化を目指すためにトラブル事例について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	美容・ウェルネス産業の振興	商品企画論	この授業では、商品企画の一端として、機能性健康食品やサプリメントの企画から開発までに必要なプロセスや知識を身につける。機能性の栄養食品の開発には、該当する法律の知識、目的とする健康問題の統計、どの様に問題となる体調の不調（血圧がやや高い、抑うつ傾向、老化、認知機能の低下、周産期の問題など）を解決するか医学的、栄養学的な知識が必要となる。その中のいくつかを事例を示しながら、実際の企業ではどのようなプロセスで製品を企画、開発、プロモーションしているのかについて学べる様に授業を展開する。授業では、基本的にはビジネス上想定される事例を提示しながら展開していくが、学生にも課題を課して発表してもらうインタラクティブな時間も設ける形で進める。課題の理解ができないなどの相談は個別に受けるようにする。
		起業論	起業後10年の会社の生存率はおよそ1割と言われる。この授業では、いつかは起業したいと思う人達が、イノベーションを繰り返しながら、長く会社を繁栄し続けられるよう、経営者の考え方や、哲学を学ぶと共に、経営者にとって一番大切な売上の上げ方を学ぶ。売上とは利益、資金、支払い能力の源泉であり、会社に携わっている社員と、その家族の幸福さえも握っているものであることを理解する。国内外での業界動向、起業家としての考え方、精神力を学び、商品販売や企画力など売り上げに繋がる方法を身につけていく。また、自ら起業し成功した有名社長達を講師として招聘し、創業のきっかけや苦労、企業理念や仕事の醍醐味など、起業意欲の喚起を目指す。
		地域産業活性論	地方においては、若者の人口流出が大きな問題となっている。地方の資産を生かす方法としてコミュニケーションの形成があると考察される。この授業では、日本の地域産業の活性化について「コミュニケーション」の視座から扱う方法を学ぶ。コミュニケーションという切り口で、地域の現状や課題について様々な事例を挙げて検証しながら、どのようなコミュニケーションが形成されれば、地域産業が活性化するか、そのためには何が必要なのかを学習し、それらを自ら考え出すことのできる人材の育成を目指す。また、ミスコミュケーションが起こる原因をしっかりと見出す力を身につけ、地域における地域や組織のポテンシャルへのアクセスを阻むバイアスについても検証を行い、バイアスから解放することにより新たな関係性を見出す手法の習得を目指す。
		インバウンド論	インバウンドと呼ばれる訪日外国人客の誘致活動は、日本国の経済活動を支える重要な柱の一つである。ツーリズム（観光）という観点から外国人が来日する目的は様々であるが、製品、技術、サービスともに秀でる日本の美容やウェルネス産業は、これまで以上に日本におけるツーリズムの魅力を高めていくことになる。本講義の学修目標は、美容産業やウェルネス産業が訪日外国人市場において求められる価値や事業化に必要な課題を発見する力を養うことである。受講には、旅行業やホテル・旅館をはじめとする宿泊業等、観光産業への興味と経営戦略や管理への関心も求められるため、旅行業や宿泊業を中心とした最新の事例を取り扱う講義に加え、授業中にワークシートを考えながら記入し、授業終了時に提出することを課す。
		ウェルネスツーリズム論	ウェルネスツーリズムは、「旅先でのスパ、ヨガ、瞑想、フィットネス、ヘルシー食、レクリエーション、交流などを通して、心と体の健康に気づく旅、地域の資源に触れ、新しい発見と自己開発ができる旅、原点回帰し、リフレッシュし、明日への活力を得る旅」と定義され、その起源は文明史以来旅の原点とされる魂を癒す聖地巡礼にある。本講義では、国内外のウェルネスツーリズム最新動向から、新しいウェルネスの定義にもとづき地域資源をウェルネス資源として新しい価値、高付加価値を生み出す方策、多業種、多職種、異業種連携による「次世代ライフスタイル産業」としての新しいツーリズムへの理解を深める。

授 業 科 目 の 概 要			
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	美容・ウェルネス産業の振興		
	消費者心理論	人はどのように購買し、消費を繰り返すのかと言う循環行動を心理学的アプローチにより、消費者の購買行動の心理的变化や社会心理学的メカニズムを理解する。この講義では、経済学の基礎、マーケティングの基礎概念の理解度を確認し、消費者の購買行動、意思決定、社会心理学まで理解できることを目的とする。また、人間行動としての理解から、心理学の分野としての行動心理学、行動分析学の基礎を学び、消費者行動と心理学の関連性を理解度も確認する。以上のことから、心理学分野の人間関係やコミュニケーションスキルも講義内容に含めながら、一般の経済的知識のみならず社会人として自らの良い消費者として行動できるようになることを目的とする。	
	ウェブメディア演習	この授業では、映画の技術に応用し、物語を生むための基礎訓練を行い、言語情報と非言語情報を組み合わせ、「感応」を主体としたコミュニケーションを実現させる力を養成する。人類は「画像言語」「音声言語」「文字言語」を持っている。これらの非言語コミュニケーションと言語コミュニケーションを連携連動させる方法として、イメージ（写真、動画、絵、イラスト等）と音声（言葉、声、音楽、音等）と文字を組み合わせることを学ぶ。そして、この方法を学ぶことで言語と非言語両方の領域の脳を同調させ、説得や納得を超えた「感応」という状態に人間を持ち込むことを可能にするこの理解を深めていくことを目的とする。	
	ビジネスプレゼンテーション演習	ビジネスプレゼンテーションは、大きくとらえると私たちの日常のあらゆる場面に存在し、社会生活を成り立たせる要素となっている。その必要性は学生としての発表、就職活動、インターンシップ、社会人になってからも多くの場面で求められている。この授業では、不確定で多様化した状況においてやり取りされる情報を正しく読み取り、解釈し、自らの考え・意思を適切に伝え、関わる人たちとより良い関係を築く力をつけることを目的にする。学生生活だけでなく社会人になるためにも、社会人になってからも必要となるビジネスプレゼンテーションのベースとなる、デリバリーする情報伝達能力、シナリオを構築する論理的構成力、プレゼンスの基礎を学ぶ。基礎3点を踏まえて実際にプレゼンテーションの演習によって表現能力、手法を習得する。基礎を理解したうえで、社会人となってからも自分らしく活動できる能力を高められるよう映像撮影・確認を交えながら現状確認し、プレゼンテーション技術向上を目的とする。	
	サロンマネジメント演習	顧客満足度を満たすためには、品質の管理と品質の向上を継続することが必要である。品質の管理と品質を向上させるための考えの基礎は「観察する→問題点の気づき→解決方法の立案→対応→再発防止策の作成（システム化）→サービス向上のサイクル」を実践することにある。美容サービス提供組織の特性を考えるにあたり、美容産業だけでなく他産業のあらゆる組織の経営に共通する基礎知識を活用して集団や組織の問題分析を行い、他の様々なサービスとの比較から美容産業の特性を理解し、経営学を基に組織論及びサロンマネジメント論における主要な概念を解説することで、学生が集団・組織・環境をマネージする基本的な視点を得られることを狙いとする。またISO/TC228の国際標準の要求事項を学ぶことで、インバウンド市場を見据えたサロンづくりの視点を得ることを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(ビューティ&ウェルネス学部ビューティサイエンス学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
展 開 科 目	美 容 ・ ウ ェ ル ネ ス 産 業 の 振 興	商品開発と効果検証	この科目では、効果検証で使用する機器を正しく使用することができ、その結果を検証し、今後必要となる技術や化粧品を考え提案する力を養うことを目的としている。そして、将来各企業で効果検証、商品開発に携わることを想定し、その基礎力をつけることを大きな目標としている。授業では、与えられた授業のテーマに合わせ、現在の美容業界の現状を知り、同業の市場調査およびマーケティング、自分自身の体験談などから、今必要とされること、今後必要となることを調べる。また、学生が実際に化粧品を使用し施術を行い、施術前後に様々な測定機器（体組成計、メジャーリング、効果写真）を実際に使用し、測定結果をデータ（グラフや表）にまとめる。1回の施術前後で出る結果にはどのような変化や数値の違いがあるかを検証し、その結果がどのような効果を得られたのかを考察する。その結果に対してディスカッションを行い、視点、考え方を広げて気づく力を身につける。そして、その結果を基に、新しい商品の開発へつなげる発想力を身につける。	
		海外研修	近年、グローバル化を背景として、多くの学校や企業が海外研修を実施している。海外研修の趣旨は、国際関係における日本の立場を認識し、異文化を理解し、外国語のコミュニケーション能力を向上すること、訪れる諸国での文化の違いを直接体験すること、研修では積極的な姿勢で臨むことなど、個別の体験をする機会もあるので各人の目的意識をはっきり持つことが重要な課題となる。この授業では、自分の目で確かめ、現地で資料を収集し、様々な説明を受けることにより、国際情勢に対する理解を深めることが要求され、各国の美容やウェルネス産業における美容法や癒し、化粧品についての知識を深め、団体行動、共同生活を通し協調性、自主性、規律、フレンドシップを身につけることを想定している。より効果的な研修とするため、出国前に計画・目標を明確にし、帰国後にはレポートを作成し研修発表の場を設け、自身の学びの成果と成長を再認識することを目的とする。	
総 合 科 目		総合演習Ⅰ	本科目では、各種専門領域別の担当教員の下、学生が想定する演習テーマについて、国内外の論文抄読や調査を行い、先行研究の把握を確認したのち実施する。そして、実現可能な研究であることを吟味し、研究計画書を作成する。演習テーマについては、総合演習Ⅱと連動し、計画書を基に演習を段階に実施することを目指す。先行研究を調べ、まとめることで、ビューティ&ウェルネスに対する知見を深め、発展的な演習テーマを決定し実施する。	主要授業科目
		総合演習Ⅱ	本科目では、総合演習Ⅰでの演習テーマを受けて、実際に遂行中の研究の精度を吟味し、研究結果をまとめる。各種専門領域別の担当教員の下、実施中の演習について精度の確認を段階的に行う。研究に関しては、科学的根拠に基づく実証や、顧客からの信頼性を集めるデータ分析を行いながら実施する。演習については、科目内で一定の終結を伴いながらも、今後の美容産業・ウェルネス産業の発展に繋がる事を目的とし、実施する。演習結果については、成果発表を実施する。	主要授業科目

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人ミスパリ学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度

	入学	編入学	収容
	定員	定員	定員

ビューティ&ウェルネス専門職大学			
ビューティ&ウェルネス学部	3年次		
ビューティ&ウェルネス学科	194	6	788
計	194	6	788
ミス・パリ・ビューティ専門学校			
トータルビューティ学科	120	—	240
美容学科	80	—	160
エステティックマスター学科	12	—	12
計	212	—	412
ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校			
トータルビューティ学科	80	—	160
美容学科	79	—	158
計	159	—	318

令和8年度

	入学	編入学	収容
	定員	定員	定員

ビューティ&ウェルネス専門職大学			
ビューティ&ウェルネス学部	3年次		
ビューティ&ウェルネス学科	154	6	628
定員変更(△40)			
ビューティサイエンス学科	40	—	160
学科の設置(届出)			
計	194	6	788
ミス・パリ・ビューティ専門学校			
トータルビューティ学科	120	—	240
美容学科	80	—	160
エステティックマスター学科	12	—	12
計	212	—	412
ミス・パリ・ビューティ専門学校 大宮校			
トータルビューティ学科	80	—	160
美容学科	79	—	158
計	159	—	318